

風邪の猫たち増えています！

朝晩が肌寒くなってきました。寒くなると人間も風邪をひきますが、
これからの時期猫ちゃんの伝染病にも注意が必要です！

そこで今回は、3種混合ワクチンに含まれる猫のウイルス性の病気について紹介します

『猫の伝染病』

猫ウイルス性鼻気管炎・・・ヘルペスウイルスが原因で起こる猫風邪のひとつで、仔猫のときにかかりやすい



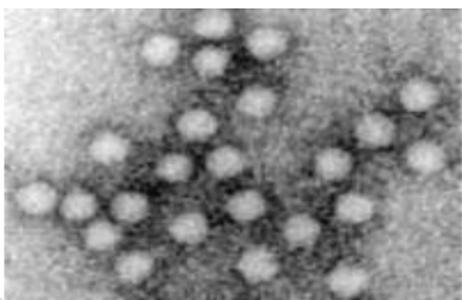
くしゃみ、鼻水、発熱、目やに、食欲不振、角膜炎、結膜炎など
仔猫がかかってしまうと急激な衰弱や脱水で死亡する場合があります
妊娠している猫は流産の可能性もあるので注意が必要です

猫カリシウイルス感染症・・・カリシウイルスが原因 猫ウイルス性鼻気管炎と混合感染することも多い



くしゃみ、鼻水、発熱、目やになどウイルス性鼻気管炎と似た症状ですが、
ひどくなると**口や舌に潰瘍や水泡**ができ、痛くて食べられなくなったり
大量のヨダレが出ることもあります

猫汎白血球減少症・・・パルボウイルスが原因の伝染病 別名:猫ジステンパー、猫伝染性腸炎



高熱、食欲不振、激しい嘔吐・下痢による脱水症状、白血球の減少など
非常に感染力の高いウイルスで、免疫のない猫への感染率はほぼ100%
体力のない仔猫は数時間～一日で死亡してしまうこともあります
妊娠中の猫が感染すると流産や異常産の原因になります

これらの病気は感染した猫の鼻水・唾液・排泄物や人間の手や服についたウイルスでも他の猫に感染してしまいます
感染の疑いがある場合は**他の猫と近づけない・猫の食器や飼い主の手を消毒**するなど、感染を拡げないようにしましょう

そして、この3つの病気を防ぐには混合ワクチンが最も有効です

※残念ながら100%予防することはできませんが、感染しても比較的軽い症状ですみます

ワクチン接種スケジュール

- ① 生後2ヵ月頃…初回ワクチン
- ② 生後3ヵ月頃…2回目ワクチン
(初回ワクチンの1ヵ月後)
- ③ それ以降は1年ごとに追加接種

子猫は生後しばらくの間、母猫ゆずりの免疫によって守られています
この免疫が残っているうちは、ワクチンはうまく働きません
初めに2回注射するのは、この免疫が切れる時期に合わせるのと
1回目のワクチンが切れる前にもう一度注射すると
より強くより長期間続く免疫を獲得することができるためです
また、ワクチンによる免疫は一生続くものではありません
2年目からは年1回の追加接種によって、免疫を高め維持することが大切です



生後2-3ヵ月で初回ワクチン、大人の猫も
一年に一回接種してあげてください
定期的な接種で愛猫を伝染病から守りましょう!

